

# はじめに

## 本書の目的

本書は、簿記検定3級試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。このテキストをマスターすれば、合理的かつ最短で簿記検定3級試験の合格圏に入ることができます。

## 本書の特色・使い方

### ① 文章は簡潔に、かつ分かりやすくしました。

少ない時間で全範囲を勉強するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、分かりやすくしました。

### ② 具体例を通じて学習できるようにしました。

試験において抽象的な知識は不要。むしろ、有害です。そこで、本書は生きた具体例を通じて、必要な知識をしっかり身につけることができるよう構成しました。

### ③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

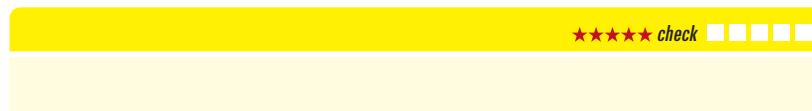
試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、



の3段階で示しました。

### ④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

■ 黄色枠で5つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。テキストの本文中や事項の最後にポイントとしてまとめてある場合があります。



- テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1~4つの星マークで重要度を示しています。

星マーク1~4で重要度を表記

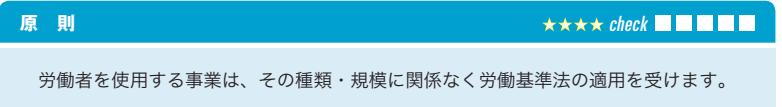
チェックボックス

★★★ check

色枠は学習意欲向上の一助として、カラフルな色使いにしています。



- 必須学習項目に関する参考項目については、同色で下記のように表示しています。



この場合、「原則」に関する参考項目です。

- テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 /

- テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けています。理解しづらい箇所に印をつけたり、メモをとったりする際は、メモ欄にすぐに書き込むのではなく、まずは付箋に書いてメモ欄に貼りましょう。この方法で、テキストを汚さずに、気づいたことを一時的に記録します。

次に、学習を進めるうちに不要となった付箋をはがしましょう。付箋をはがすことで学習が進んだことを実感できます。学習が進んでもなお必要な情報をメモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

本書の利用により、一人でも多くの方が簿記検定3級試験に合格されることを、心より切望します。

STEP  
1

# 簿記を始めよう！

なぜ、簿記を学ぶのか？

C  
ゾーン

会社や商店にとって、  
利益をあげることが重要な関心事です。

利益は、収益から費用を  
引くことにより計算されます。

もっとも、会社や商店では、  
毎日、お金や物の出入りがあります。

そのため、頭の中だけでは、  
正確に収益や費用を把握することができません。

そこで、毎日の取引を帳簿に  
つける必要があります。

この帳簿をつけるためのルールを学ぶことが、  
「簿記」を学ぶことの意義です。

実際に、簿記をやってみよう！ 1

C  
ゾーン

ケース 1

商品を100円で販売し、現金を受取った。

借 方	貸 方
現 金 100	売 上 100

- ① 日々の取引を、このように帳簿につけておくことを、**仕訳**といいます。
- ② **借方**と**貸方**という記載
  - 借方** → 帳簿の**左側**の欄を意味します。
  - 貸方** → 帳簿の**右側**の欄を意味します。
- ③ 「100」という数字 → 仕訳では、左右**同じ数字**になります。
- ④ また、「現金」や「売上」という記載は、**勘定科目**といいます。

ポイント

- 1 帳簿の**左側**の欄は**借方**。右側の欄は**貸方**。
- 2 **借方**と**貸方**の数字は、必ず**同じ**にする。



## 実際に、簿記をやってみよう！ 2

C  
ゾーン

## ケース 2

商品の宣伝のため、広告費500円を現金で支払った。

借 方	貸 方
広 告 費 500	現 金 500

ケース 1 現金 → 増加 → **かりかた** **借方**に記入されています。

ケース 2 現金 → 減少 → **かしかた** **貸方**に記入されています。

## ポイント

現金が増加する時は**借方**。現金が減少する時は**貸方**。



## 実際に、簿記をやってみよう！ 3

C  
ゾーン

## ケース 3

銀行から800円借り入れ、現金で受取った。

借 方	貸 方
現 金 800	借 入 金 800

## ケース 4

借入金800円を現金で返済した。

借 方	貸 方
借 入 金 800	現 金 800

ケース 3 と ケース 4 を比較してください。

借入金 → 増加 → **かしかた** **貸方**に記入されています。

借入金 → 減少 → **かりかた** **借方**に記入されています。

「現金」の場合とは、逆になっています。これは、「現金」と「借入金」の性格が違うからです。つまり、現金は「資産」であるのに対して、借入金は「負債」だからです。

## ポイント

資産が増加する時は**借方**。負債が増加する時は**貸方**。

ここで資産とは、現金の他に預金や売掛金、棚卸資産である商品や製品、土地や建物などの有形固定資産を示す総称です。

これに対する負債とは、借入金の他に買掛金や支払手形、未払費用や未払金などを示す総称です。



## 実際に、簿記をやってみよう！ 4

C  
ゾーン**ケース 5**

現金 700 円の出資を受けて開業した。

借 方	貸 方
現 金 700	資 本 金 700

資本金は、「**資本（純資産）**」にあたります。そのため、**貸方**に記入します。

**ポイント**

「**資本（純資産）**」が**増加**する時は**貸方**。

ここで「**資本（純資産）**」とは、資本金の他に繰越利益剰余金などを示す総称です。  
これ以降、本書では「**資本（純資産）**」のことを単に「**資本**」といいます。  
なお、必要に応じて純資産という用語も使います。



## 実際に、簿記をやってみよう！ 5

C  
ゾーン

再び、**ケース 1** と **ケース 2** を具体例として使います。

**ケース 1**

商品を 100 円で販売し、現金を受取った。

借 方	貸 方
現 金 100	売 上 100

売上は、「**収益**」にあたります。そのため、**貸方**に記入します。

**ケース 2**

商品の宣伝のため、広告費 500 円を現金で支払った。

借 方	貸 方
広 告 費 500	現 金 500

広告費は、「**費用**」にあたります。そのため、**借方**に記入します。

**ポイント**

**費用**が**増加**する時は**借方**。**収益**が**増加**する時は**貸方**。

ここで**収益**とは、売上の他に受取利息や受取家賃などを示す総称です。  
これに対する**費用**とは、広告費の他に売上原価や従業員に対する給料・賞与、水道光熱費や通信費、固定資産売却損などを示す総称です。

